ides) *annulatus*, 2) *M. M. annulipes*, 3) *M. M. annulifera*, 4) *M. M. indiana*, 5) *M. M. indica*, 6) *M. M. longipalpis*, 7) *M. M. uniformis*, 8) *Anopheles barbirostris*, 9) *Anoph. hydr. sinensis*, 10) *Anoph. hydr. nigerrimus*, 11) *Anoph. hydr. "X"*, 12) *Armigeres obturbans*, 13) *Aedes aegypti*, 14) *Aedes albopictus*, この中 10) と 13) 14) の *Aedes* は實驗的に感染させ得たという報告だけである。ところが小島は周囲 2 里、高さ 6 百餘米の急峻な孤島で、水田、沼澤地を有せず、昭和 25 年 9 月までの調査では、僅かに次の 5 種の蚊しか存在しない。1) *Culex pipiens pallens*, 2) *Culex vorax*, 3) *Aedes togoi*, 4) *Aedes albopictus*, 5) *Aedes flabopictus* この中 2, 4, 5, は極く少数見られるのみで、住民の罹患率 60% という同地では問題になることは少いと思われる。*Culex pipiens* は各戸にある貯水タンクにかなり発生していた。そして *Aedes togoi* は更に多く、貯水タンクばかりでなく、海岸の岩の鹹水の溜り等にも夥しく発生していた。實際に 9 月の調査の時、人家内、動物厩、野外採集で得た成蟲は大部分この *Aedes togoi* であつた。しかもこのものの 68 匹を解剖した結果 1 匹に於て、フィラリア幼蟲の 2 齡と 3 齡のもの各 1 雙宛を得た。Ⅲ齡のものはすでに成熟した感染可能のものである。従つてこゝにマレー糸狀蟲の媒介蚊として自然感染で見出し得たものとしては新しい屬、新しい種となる *Aedes togoi* を報告する。

[傳染病研究所第六研究部衛生動物研究室]

Anopheles hyrcanus sinensis の生態學的研究 (累代飼育のための基礎的研究) 第 1 部

阿 部 康 男

Abe, Y.: Ecological studies on *Anopheles hyrcanus sinensis*.

(A basic research for its laboratory rearing) I

實驗室内での *A. hyrcanus sinensis* 行動解析及び京濱地區及東北地區 31 ケ所での本種の棲息及發生狀態觀察の結果に基きその生態の大略を知りえた。この研究を基とし從來困難とされていた本種の累代飼育が比較的容易に行わしめる事が出来るが、本報告に於ては第 1 部として成蟲の行動觀察結果についてのみ述べる。

一般飛翔活動及び吸血活動は覺醒蚊の場合は夫れ夫れ 8°C 及び 14°C の低温に於ても誘發され得るが、一般には 20°C 以上 30°C 以下に於て普通である。交尾活動、産卵活動も同様であるが、成蚊の行動支配因子として最も重要なのは湿度である。羽化直後及び吸血後卵細胞發育時期に於ては特に高湿度環境を必要としているが、停滯している 100% の湿度は諸活動を抑制する。

雌蚊の吸血活動は温湿度に影響されるが、吸血後の安靜條件が好適な場合は吸血頻度が減少するに反し産卵數が増加し、吸血後の條件が極度高温・低温、低湿、高噪等の場合は、吸引された血液は消化不完全のまま排泄され、卵細胞の發育不整となり産卵數を減少するが、これに反し吸血頻度が亢進する。

交尾活動の好適條件は完全静寂と 23—25°C、98% 前後の湿度の場合が最も旺盛であり、

群飛中の雄蚊は断続的な水平飛翔運動を主體にし時折體位をそのままにして垂直飛翔運動を組み入れる。水域上に於て群飛を行う場合が多く、この際は垂直運動によつて水面に降り交配器に水を接着せしめる動作をくりかえす。群飛は一般に地上又は水面上1米を超えない範囲で行われる。

飼育蚊の交尾率 本種の累代飼育の難點は交尾率を如何にして向上せしめるかにある。

實驗室内の好適環境での交尾率は、飼育籠の廣さ、收容蚊の密度、收容蚊の雌雄比に依て決定される。

實驗結果より見た 50% 以上の交尾率を得た條件は、23—27°C、85—98% 濕度に於て、籠の底に一面に水を満たしたシャーレを敷いた場合に於ては、次表の如くである。

以上の諸條件は常に有効値を得られ、その際の最高交尾率は籠の廣さ 50cm³、收容蚊總數 200、雌雄比 1:3 に於ける 71.31% であつた。

尙高濕度環境に於ては飼育籠内の空氣を常に環流せしめなければならず、又飼育室内が一切の振動から遮斷されねばならないことは勿論である。

籠の廣さ	收容蚊總數	雌雄比(♀:♂)
30cm ³	210	1:2
"	300	"
50cm ³	"	"
"	200	1:3
"	320	"
80cm ³	200	"
"	320	"
100cm ³	320	1:3

福井縣鯖江地方の蚊の分類並に 其の季節的消長について

木 水 英 夫

Kimizu, H.: Seasonal occurrence of the species of
mosquitoes in Sabae Area, Fukui

昭和 25 年 6 月下旬より 9 月末日迄の期間中、毎週土曜日の夜間人家内にて 30 分間、吸蟲管により、蚊の成蟲雄 620 匹、雌 4751 匹を捕獲し、これを調査研究するに次の成績を得た。

1) 種類並に發生度

アノフェレス屬—シナハマダラカ^卅、エセシナハマダラカ⁺。**イエカ屬**—アカイエカ^卅、コガタアカイエカ^卅、シロハシイエカ^卅、カラツイエカ⁺、セシロイエカ⁺、ハマダラウスカ⁺、トラフカクイエカ⁺、コガタクロウスカ⁺、ミツボシイエカ⁺。**ヌマカ屬**—アシマダラヌマカ⁺。**クロヤブカ屬**—オウクロヤブカ^卅。**ヤブカ屬**—ヒトスジシマカ^卅、トウゴウヤブカ^卅、ヤマトヤブカ^卅、キンイロヤブカ^卅。**ナガハンカ屬**—キンバラナガハシカ^卅。

2) 季節的消長

6 月下旬一齊に越冬卵の羽化による蚊の成蟲の發生を認め各種とも世代を重ねるに従い、減少し、9 月下旬に入り一時又増加する。オウクロヤブカは 6 月より次第に増加し 8 月下旬に最高となる。各蚊屬とも酷暑中は其の前後の時よりも發生率が小で、大體雨後においては發生率が大である。

市街地の季節的消長 6 月、7 月においては、オウクロヤブカを除いて各蚊屬とも